



JBC00000079

2023年11月24日

(第1号様式)

### プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット®認証申請書

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 合同会社グリーンパワー西津軽洋上

住所：青森県つがる市木造有楽町45-1

氏名：代表社員職務執行者 坂木 満

法人番号：5420003002013

(共同申請者) 鯨ヶ沢町漁業協同組合

住所：青森県西津軽郡鯨ヶ沢町大字本町200

氏名：代表理事組合長 富田 重基

法人番号：2420005007723

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	白神山地（鯨ヶ沢町）沿岸域における藻場の活性化プロジェクト

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の新たな創出
プロジェクト概要	<p>対象海域では、水産資源の保護や海域環境の保全・再生等を目的に、青森県により漁礁の設置および潜堤の造成が行われ、海藻が着生した。また、鯨ヶ沢町漁協によるワカメ養殖が行われ、これにより近隣の防波堤にワカメが自生するようになっていた。</p> <p>鯨ヶ沢町漁協では、これらの藻場を保全するため、付近を魚介及び海藻の禁漁区にするなどして、藻場の保全及び維持管理を行ってきた。また、令和4年度には、これまでの藻場造成に関する取り組みと、白神山地から供給される豊富な栄養をより積極的に活用すべく「白神山地（鯨ヶ沢町）沿岸域における藻場の活性化プロジェクト」を立ち上げ、水産資源の増殖やブルーカーボンの創出による地球環境への貢献を目的に、造成藻場の現況把握および移植活動による造成藻場の活性化、造成藻場の拡大について検討を進めている。</p> <p>しかしながら、藻場のモニタリングや移植活動、新規藻場造成を本格的に実行していくうえで、資金調達が必要であることから、Jブルークレジットの申請を行う次第である。</p> <p>今後、既設の造成藻場において、施肥材の投入等による藻場の増殖活動を行いCO<sub>2</sub>吸収量の維持・拡大を目指すとともに、藻場によるブルーカーボン効果等を把握するための各種調査等を継続的に実施する予定である。また、既存の造成藻場付近をさらに嵩上げすることも検討中である。Jブルークレジットの売却益はこれらの活動に充てるものである。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>藻場の状況監視：アワビ（漁期11/1～7/31）、サザエ（漁期6/1～9/30）は素潜りでの漁の度に藻場の状況を常時監視している。漁網は年中禁止としている。</p> <p>（鯨ヶ沢町漁協）</p> <p>藻場のモニタリング：1回（鯨ヶ沢町漁協・GP西津軽洋上）</p>
プロジェクト実施開始日	2022年4月から現在

方法論1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻</p> <p>【藻場】 ガラモ場</p> <p>【構成種】 その他</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年09月01日～2023年08月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>1.9(ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>【諺ヶ沢漁港】 水上ドローンおよび水中ドローンを用いて、潜堤および防波堤周辺の藻場の種類と被度を観察した。また、衛星画像を用いて、藻場の分布範囲を把握し、水中ドローンのデータと重ね合わせることで、海藻種別の被度別面積を算定した。面積の算定にはGISを用いた。面積は被度を乗ずることで、実勢面積に換算した。【赤石漁港】 漁礁設置箇所において、船上より方形枠付きの水中カメラを降下し、海藻種別の被度を判定した。1箇所あたり0.5ha程度の範囲で複数回計測し、代表的な被度を決定した。合計25箇所で計測を行い、海藻種別の被度別面積を算定した。面積は被度を乗ずることで、実勢面積に換算した。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>面積の算定. pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>2.7</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>Jブルークレジット申請・認証の手引に掲載されている単位面積あたりのガラモ場の吸収量（表4-8）を適用した。</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>吸収係数の算定. pdf</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>5.129(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>95%</p> <p>(面積：1.9(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：2.7×評価：70%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船（51kW / 70PS 程度）</p> <p>【台数】 2隻</p> <p>【稼働時間】 0.83(h)</p> <p>【出力】 51.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 重油A</p> <p>【CO2排出量】 0.034(t-CO2)</p>

方法論1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>【設定した根拠】 鯨ヶ沢漁港および赤石漁港ともに、砂泥質の海底であり、潜堤や漁礁により嵩上げし、岩礁様の構造体を造成する以前は、海藻類は着生していなかった。このため、ベースラインは0t-CO2/年と設定した。</p> <p>【資料】 ベースラインの算定.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	3,377(t-CO2)

方法論2	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】海藻</p> <p>【藻場】ワカメ場</p> <p>【構成種】ワカメ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年09月01日～2023年08月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>1.8 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>【鯉ヶ沢漁港】水上ドローンおよび水中ドローンを用いて、潜堤および防波堤周辺の藻場の種類と被度を観察した。また、衛星画像を用いて、藻場の分布範囲を把握し、水中ドローンのデータと重ね合わせることで、海藻種別の被度別面積を算定した。面積の算定にはGISを用いた。面積は被度を乗ずることで、実勢面積に換算した。【赤石漁港】漁礁設置個所において、船上より方形枠付きの水中カメラを降下し、海藻種別の被度を判定した。1箇所あたり0.5ha程度の範囲で複数回計測し、代表的な被度を決定した。合計25箇所で計測を行い、海藻種別の被度別面積を算定した。面積は被度を乗ずることで、実勢面積に換算した。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>面積の算定. pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>0.5</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>調査サイト近隣の文献調査より、単位面積あたりの生産量を設定し、これに残存率①、残存率②および生態系全体への変換係数を乗ずることで吸収係数を決定した。</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>吸収係数の算定. pdf</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>0.9 (t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>95%</p> <p>(面積：1.8 (ha) × 評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：0.5 × 評価：70%)</p>

方法論2	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度)</p> <p>【台数】 2隻</p> <p>【稼働時間】 0.83(h)</p> <p>【出力】 51.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 重油A</p> <p>【CO2排出量】 0.033(t-CO2)</p>
	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>【設定した根拠】 鯨ヶ沢漁港および赤石漁港ともに、砂泥質の海底であり、潜堤や漁礁により嵩上げし、岩礁様の構造体を造成する以前は、海藻類は着生していなかった。このため、ベースラインは0t-CO2/年と設定した。</p> <p>【資料】 ベースラインの算定.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	0.565(t-CO2)

炭法論3	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻</p> <p>【藻場】 その他</p> <p>【構成種】 その他</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年09月01日～2023年08月31日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>2.2 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>【鯨ヶ沢漁港】 水上ドローンおよび水中ドローンを用いて、潜堤および防波堤周辺の藻場の種類と被度を観察した。また、衛星画像を用いて、藻場の分布範囲を把握し、水中ドローンのデータと重ね合わせることで、海藻種別の被度別面積を算定した。面積の算定にはGISを用いた。面積は被度を乗ずることで、実勢面積に換算した。【赤石漁港】 漁礁設置箇所において、船上より方形枠付きの水中カメラを降下し、海藻種別の被度を判定した。1箇所あたり0.5ha程度の範囲で複数回計測し、代表的な被度を決定した。合計25箇所計測を行い、海藻種別の被度別面積を算定した。面積は被度を乗ずることで、実勢面積に換算した。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>面積の算定. pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>0.8</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>調査サイト近隣の文献調査より、単位面積あたりの生産量を設定し、これに残存率①、残存率②および生態系全体への変換係数を乗ずることで吸収係数を決定した。</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>吸収係数の算定. pdf</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>1.76(t-CO<sub>2</sub>)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>95%</p> <p>(面積 : 2.2(ha) × 評価 : 95%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数 : 0.8 × 評価 : 70%)</p>

方法論3	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度)</p> <p>【台数】 2隻</p> <p>【稼働時間】 0.83(h)</p> <p>【出力】 51.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 重油A</p> <p>【CO2排出量】 0.033(t-CO2)</p>
	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>【設定した根拠】 鯨ヶ沢漁港および赤石漁港ともに、砂泥質の海底であり、潜堤や漁礁により嵩上げし、岩礁様の構造体を造成する以前は、海藻類は着生していなかった。このため、ベースラインは0t-CO2/年と設定した。</p> <p>【資料】 ベースラインの算定.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	1.137(t-CO2)



合計のクレジット認証対象の吸収量	5.0(t-CO2)
------------------	------------